

英語学概論 (第10講)

英文の様々な特徴

この講で学ぶこと


- ▶ 品詞とは何か
- ▶ 動名詞と不定詞の違い
- ▶ 完了形の役割
- ▶ 仮定法の使い方




8品詞

- ▶ 英語では、文の構成要素としての語を文中における位置や働きによって通常8種類に分け、それを8品詞と呼んでいる。
- ▶ 一般に8品詞には、名詞(noun)、代名詞(pronoun)、形容詞(adjective)、副詞(adverb)、動詞(verb)、前置詞(preposition)、接続詞(conjunction)、間投詞(interjection)が含まれる。

動名詞とto不定詞

- ▶ 不定詞についているtoは、もともとは方向性を示す。そこから傾向として、to不定詞は動作の方向性、つまりこれから行う未来のことを表す。一方の動名詞は、過去や現在のこと、そこから一般的なこと、そしてその概念そのものを示す。
- ▶ 不定詞が後に続く動詞 
- ▶ claim, decide, decline, demand, desire, determine, expect, hope, learn, manage, mean, offer, pretend, promise, refuse, resolve, seek, wish
- ▶ We helped to clear up the mess. (私たちはちらかったのをかたづける手伝いをした)
- ▶ I expect to be there this evening. (今夜にはそこにいくつもりです)
- ▶ You must learn to be more patient. (君はもっと忍耐強くなることを学ぶべきだ)

動名詞

- ▶ admit, avoid, consider, deny, enjoy, escape, excuse, finish, give up, imagine, involve, mind, postpone, put off, stop
- ▶ これらの動詞はいずれも、「現在あるいは過去にしたことを～する」というニュアンスがある。また、抽象性が高まりそのことがイメージされるので、時間的に中立(現在)か過去のことを示す。何かを回避、延期・遅延する、何かを終止・休止する、何かを反復繰り返すなどの意味を持つ動詞が多くて、動作の実現に対して消極的な含みを持つ動詞が多い。 
- ▶ 不定詞は動詞的で動きがあるのに対して、動名詞は名詞的で静的であると言える。
- ▶ (1) She enjoyed singing to herself.
- ▶ (2) He practices flying a glider every weekend.
- ▶ (3) The thief admitted entering the house.

完了形

- ▶ 完了形には、現在完了、過去完了、未来完了がある。基本的な構造は同じである。
- ▶ 現在完了形には、過去に起こったことが現在とどのように関係するかということ述べている。
- ▶ ①完了・結果：動作や出来事の完了や結果を示す。
- ▶ I've just finished lunch. (私はちょうど昼飯を終えました)
- ▶ The plane has taken off now. (飛行機は今離陸しました)
- ▶ ②経験：物事の経験を表す。
- ▶ My mother has rarely seen a doctor. (母はめったに医者にかからない)
- ▶ Have you ever seen a flying saucer? No, I never have. (空飛ぶ円盤を見たことがありますか。いいえ、ありません)
- ▶ ③継続を示す。
- ▶ He has been playing the piano for three hours. (彼は三時間の間、ずっとピアノを弾いています)

過去完了形と未来完了形

▶ 過去完了

▶ 過去のある時点を基準としてその時まで～であった、ということを示す。どの部分が過去の基準となる時を示しているか見抜くことが必要である。

▶ She had just gone out when I called at her house. (彼女の家を訪問したときは、彼女はちょうど外出していました)

▶ She was 31 years old and had been married for ten years. (彼女は31歳で、10年間結婚をしています)

▶ 未来完了

▶ 未来のある時点を定めてその時まで～であるだろうということを示す。文の意味を考えると、どの部分が未来の基準となる時か見抜くこと。

▶ If they visit Germany next month, they will have been there five times. (彼らが来月もドイツを訪問するならば、彼らはそこへ5回も行ったことになる)

未来形

- ▶ 単純未来と意志未来
- ▶ 未来を表す形としてwillがよく使われる。もともとwillは「～をする」という意志を示していたが、意志することは未来に起こることなので、ここから未来を示す用法が生まれてきた。その用法から「意志」の意味が薄れてできたのが「単純未来」である。「単純未来」は次のような用法になる。
- ▶ The meeting will be held tomorrow. (会合は明日開かれるでしょう)
- ▶ He will be writing a new book next year. (彼は来年新しい本を書くでしょう)
- ▶ be going toの用法はwillと似ていて、差がない場合があるが、一般にwillは主観的で自分の意志を示しており、be going toは客観的に未来を想定している。
- ▶ The sky is clouded over; I'm afraid it's going to rain. (空は曇っている、雨が降りそうだ)

be going toとwillの比較

- ▶ be going toはすでに何らかの兆候があることを前提にした客観的な判断なので、近い未来の予想を表すのが普通である。一方、willは話者の単なる主観的な予測で、近い未来でも遠い未来でも用いることができる。
- ▶ He is going to get better. (直に良くなるだろう→熱が下がったのか、食欲が出てきたかのようにすぐに良好になる兆しがあることを含意する)。
- ▶ He will get better. (そのうちによくなるだろう→漠然といつとは言えないが、良好になると予測をしている)。

仮定法

	従節	主節
仮定法過去→現在の事実に反する仮定	If + 主語 + 過去形	主語 + would + 動詞の原形
仮定法過去完了→過去の事実に反する仮定	If + 主語 + 過去完了形	主語 + would + have + 動詞の過去分詞
仮定法未来→未来のことを「万一～ならば」という心持ちで述べる時	If + 主語 + should (were to) 動詞	主語 + would + 動詞の原形
条件文→現在・未来に、あり得ることが起こったときの話	If + 主語 + 動詞の現在形	主語 + will + 動詞の原形

仮定法過去

- ▶ 現在の事実と反する仮定を表す文では、動詞の過去形を使い、その公式は、「If...助動詞の過去形..., ...would, should, couldなど+原形動詞」となる。
- ▶ If he were here, we could begin the meeting. (彼がいれば、会議を始められるのだが)
- ▶ We might move to a bigger house, if we had more money. (もっと金があれば、大きな家に引っ越しするかもしれない)
- ▶ I don't like this place. I wish I were back home. (私はこの場所は嫌いだ。故郷に戻りたい)

仮定法の過去完了

- ▶ 過去の事実に反対の仮定として仮定法の過去完了を用いる。その公式は、「If...動詞の過去完了形..., ...would, should, couldなど+完了形」となる。
- ▶ He would have lost his life if the operation hadn't been successful. (もしも手術が成功しなかったならば、かれは命を失っていただろう)
- ▶ If we hadn't spent so much time in Kyoto, we could have gone to Nara. (もしも彼が京都にそんなに長い時間過ごさなかったならば、我々は奈良に行けただろう)
- ▶ I wish I hadn't said that. (私はそんなことを言わなければよかったと願う)

不定冠詞

- ▶ 冠詞には、a/an (不定冠詞)、the (冠詞)と何も付かない場合(ゼロ冠詞)の3つがある。
- ▶ 不定冠詞a/anは名詞につくが、定冠詞が名詞についている場合と比較して、まだ実体として明らかになっていない。概念だけが存在している段階だと考えられる。
- ▶ I want to eat an apple. (リンゴを食べたい→どのリンゴはまだ実体が現れない)
- ▶ I want to eat the apple.(そのリンゴを食べたい→食べたいリンゴの実体はイメージできる)

定冠詞

- ▶ 定冠詞の特徴としては、話し手と聞き手が互いに了解していることを示したり、そのものを他と区別して限定する働きがある。それらは文法的には、(1)前方照応の用法、(2)後方照応の用法、(3)外界照応の用法、(4)種族一般を示す用法に区分けすることができる。
- ▶ (a) Hanako bought me some meat, but the meat was rotten. (花子は私に肉を買ってきたが、それは腐っていた)
- ▶ (b) The water of the fountain was cool . (その泉の水は冷たかった)
- ▶ (c) Pass me the pepper, please. (その胡椒をどうか取って下さい) : 外界照応とは外界にあって周囲の状況・発話の場面からそれと判るものを指す。
- ▶ (d) The dog barks. (犬というものは吠えるものだ)

課題

▶ 練習問題

▶ 冠詞を入れなさい、ただし不要な場合は×を入れなさい。

▶ (1) () meat that we bought yesterday was not good.

▶ (2) I cannot go out because I have () headache. 

▶ (3) I'm afraid you have () wrong number.

▶ (4) Mr. Kato was appointed () president of our university.

▶ (5) I want () car, but I can't afford to buy one.

▶ (6) () light and () water are necessary to plants.